Tokyo OT
2023 March No.209

東京都作業療法士会ニュース

編集：東京都作業療法士会広報部　　発行：会長　田中勇次郎

新たな１年を迎えて

会長　田中勇次郎

会員の皆様には、年度末を迎え慌ただしい日々を送られていることと思います。昨年は当会設立40周年という節目の年でしたが、コロナ禍の状況で式典や祝賀会は実施せず、都士会学会で寺山久美子第３代OT協会長、杉原素子第４代OT協会長による講演・対談と、当会の発展にご尽力下さった方々の都士会ニュース巻頭言へのご寄稿を40周年記念事業としました。

さて、40周年も終わり新たな１年を迎えて、改めて当会の運営について今感じていることを２点お伝えします。

１点目は、組織率です。2023年２月８日OT協会から、「組織率の維持・向上は職能団体として常に課題としてきたところですが、近年、新卒者の入会率が低下し、いったん入会しても数年のうちに退会してしまう傾向が顕著に見られます。本年度から協会では「組織率対策委員会」を立ち上げ、この課題に対して『職能（協会=士会）、学校養成施設、職域』の３つの立場からの視点で取り組むこととなりました。」という連絡を受けました。

OT協会の組織率は、2022年12月１日現在59.6％（会員数62.148人／有資格者数104.277人）です。2021年度OT協会資料では都士会員数は3,848人になっていますが、当会が管理する会員数は2023年１月19日現在2,560人ですので、当会の組織率は概ね40％程度と考えられます。

ちなみに、公益社団法人 東京都看護協会は、会員数47,596人／就業者数130,101人で組織率は37.6％（2022年３月31日現在）、公益社団法人 東京都歯科衛生士会は、会員数1,217人／都内就業歯科衛生士13,720人で組織率10％未満（2021年６月末時点）です。

組織率の高低は会の信用と財政に関わることなので役員にとっては大事な問題ですが、入会は任意であり必要性を感じない方は、今後も一定数存在すると思われます。入会された方が、退会されないような仕組みや内容を考えることが重要に感じます。

２点目は、連盟との連携です。2023年２月５日、東京都歯科衛生士会法人設立40周年及び富田基子前会長叙勲の記念式典・祝賀会に参加しました。東京都歯科医師会会長、東京都学校歯科医師会会長に加え、衆・参議員、都議会議員などの来賓挨拶がありました。東京都歯科衛生士会は1,200名程度の会員数ですが、今までも毎年新年会を開催し議員の来賓挨拶があったことを思い出しました。このような議員挨拶は、東京都看護協会総会や東京都PT協会新年会などでも経験しています。昨年末の東京都医師会の年末懇親会は３年ぶりということもあり、衆・参議員、都議会議員が多数参加していました。

政治的活動は連盟の役割ですが、他の団体のように東京都作業療法士連盟との連携に関して検討する必要を感じます。

皆様には、今後とも都士会活動へのご支援・ご協力の程、よろしくお願いいたします。

CONTENTS

◆新たな１年を迎えて…❶
◆介護予防・日常生活支援総合事業等（以下、総合事業）の通所系事業（短期集中通所型サービス、認知症カフェ）実践者による座談会…❷
◆事業部活動報告および研修会案内…❹
◆子ども委員会活動報告…❺
◆「地域づくり人材育成研修～基礎編～」の開催報告…❺
◆認知症アップデート研修を受けたことがありますか？…❻
◆認知症にやさしい本の紹介　VOL.37…❻
◆保険部　Letter　福祉用具レンタルによる転倒予防：セーフティブレーキ機構を備えた車いす…❼
◆就労支援に関する冊子を作成中です！！…❼
◆トヨタ社長交代からみる自動車運転と移動支援対策委員会…❽
◆「生活行為工夫情報事業を活用した説明会」報告…❽
◆災害フェーズと災害リハ支援に関連する団体…❾
◆ブロック活動のお知らせ…❿
◆第19回東京都作業療法学会開催日の変更と学会場の決定等決定事項についてのお知らせ…⓬
◆編集後記…⓬

介護予防・日常生活支援総合事業等（以下、総合事業）の通所系事業（短期集中通所型サービス、認知症カフェ）実践者による座談会

今回は、広報部と地域包括ケア対策委員会の合同企画として、総合事業の通所系事業（短期集中通所型サービス、認知症カフェ）に参画する実践者の皆様にお集まりいただき、取り組みの紹介や日頃の悩みなどの情報交換を致しました。

※別添資料はQRコードを読み込んで閲覧してください。

【実践者と事業内容】

○豊島区短期集中通所型サービス

実践者：根本悟子氏・西尾香織氏（帝京平成大学）

区内施設を利用して実施。2021年度はコーチングを中心にしたモデル事業に取り組み、2022年度は豊島区スタイルとし、全12回の利用中３回がコーチング（20分）となっている。生活面は「豊島区わくわくチャレンジシート」を活用し、１週間の生活状況を見ながら面談。自主トレチェックや情報交換の他、豊島区の介護予防体操「としまる体操」を紹介することがあり、事業終了後はとしまる体操の自主グループに参加するケースもある。加えて管理栄養士からの栄養面支援もある。当事者同士の交流や生活支援コーディネーターからの情報提供など地域資源を知る機会も多く、地域活動に参加しやすい雰囲気となっている。

○八王子市通所型短期集中予防サービス

実践者：中澤正広氏（城山訪問看護ステーション）

１対１のコーチングスタイル。同行訪問からスタートし「発見手帳」を用いて一週間の生活を面談で確認。訪問型サービスへの切り替えも可能。初回・中間・最終で体力測定を行い、終了後３か月後にも体力測定を実施し機能維持できているかフォロー。「なりたい自分」という目標を見据え、作業療法士が生活課題を抽出し、課題解決に向けての面談を行っている。

○町田市短期集中型サービス（IADL向上教室/町DAP）

実践者：遠藤康博氏（鶴川リハビリテーション病院）、今村美和子氏（町田市介護予防フレイル予防推進員）

IADL向上教室は運動型で、リハ専門職が事前訪問しケアプラン目標や生活状況へのアドバイスを行い、健康運動指導士などが支援する通所に通う。リハ専門職が中間と最終時に評価指導を行っている。

町DAPは強化型で、リハ職が一貫して関わっていく。事前訪問から通所と訪問の混合型サービスを展開する。事業の目的は終了後も望む暮らしを送るためのセルフマネジメント能力の向上を目指し、生活課題の解決に直接的にアプローチすることが出来る事業体系。卒後、買い物難民から脱却した事例や、地域の自主グループへの参加・立ち上げに繋がったケースもあった。

○北区通所型短期集中予防サービス

実践者：橋本奈実（大橋病院）

北区モデル事業で大橋病院が受託し実施している。面談を中心とした支援体系。事前訪問し自宅環境を確認したうえで､「なりたい自分」を目標に「セルフマネジメント力向上ノート」を作成し､ノートを用いて日々の生活をもとに面談していく。住民主体の通いの場など地域資源に繋げていくこと含め、最終的に元の生活に戻ること、ご本人のやりたいことが再びできるようになることを目標にしている

○台東区：認知症カフェ

実践者：野本潤矢氏・亀井将太氏（台東区立台東病院）

野本氏の企画が採用され作業療法士が中心となって2017年から実施。区民ならだれでも参加でき、元気な人から認知症の人、家族の人まで幅広く参加。３部構成で①体操、②地域の方や医療専門職が交流できる企画（参加型プログラム）、③自由タイム。最近では東京都美術館で認知症カフェを開催。認知症カフェの利用をきっかけに生活支援の導入に至ることもある。

【困りごとや困難、工夫】

○短期集中通所型サービス

＜対象者の事業の理解＞

・リハビリテーション専門職が関わるということで、徒手的なリハビリをしてくれるのではないかという期待をもつ方がいる。事業のオリエンテーションが大事である。

・本人が必要性を感じていないことがある。何がしたいか、やりたいことが広がらない方もいる。

・事業が終わりになるのが嫌でOTに対し依存的になってしまう。あとはご自身でという風に背中を押すのが難しい。

＜リスク管理＞

・医学的な情報が不足している。循環器障害のある方が医師から言われたことを守っていないことや、利用時に高血圧症に気が付くことがある。地域包括のケアマネに連絡を取ったり、次回の診察で主治医に確認してもらったりしている。

・本人や周囲の調子が上がり過ぎて困った事例があった。事業の中盤くらいのまだ歩行もよくない段階で、友達に連れられて遠方に旅行に行ってしまった。

＜具体的な内容の工夫＞

・自主トレを提案しなければならないが、その運動が本当に適切なトレーニングなのか自信がない。

・地域資源についての知識が足りない。利用者から教えて頂くことも多く勉強になっている。

○認知症カフェ

＜カフェの運営について＞

・スタッフの立場が異なり、どういった認知症カフェにしたいのか思いをすり合わせるのに苦労した。ちょっとしたきっかけから話し合いを重ね同じ方向を向くことができた。

＜プログラムの工夫＞

・対象者の中には認知症当事者の方も予防で来ている方もおり、みんなが楽しめてまた来たいと思えるプログラムを続けていくことが大変である。

【やりがい・喜び・メッセージ】

・病院よりも生活に密着して、対象者のナラティブな面や生活歴などを踏まえて対応できるところにやりがいを感じる。地域を知ることで普段の業務にも色んな幅が広がっていくと感じる。

・ネガティブ発言からポジティブ発言になる等､生活の目的や目標が広がることが嬉しくやりがいを感じる。病院内のリハよりも自由度が高い目標も立てることができることも魅力である。

・OTが大切にしている面接を多く取り入れることができるので、その方らしさや総合的理解を深めることができ、OTらしい事ができると感じる。

　生活支援コーディネーター等の医療職以外も関わることが多く、地域のことを知ることができ、OTの視点が生かせる場なので多くの人に参加してもらうと嬉しい。

・普段はリハ職と関わることがない地域の方々の生活が低下した時に一時的に関わることで生活を再構築し、人生が変わっていくところを間近に見ることができる。初めは不安な表情の方が前向きに変わっていくところや、取組によって動作が安定すると自信がついていき、生活が広がっていく。経験年数を積んでいても再学習するよい機会にもなっている。

・OTの考えを持って地域を対象にすることができる。地域ではOTをあまり名乗らないようにしているが、他の職種の方にはOTの良さを知ってもらえる機会になっていると感じている。地域の方と一緒に作り上げていることで地域の役に立っていると感じる。

【対談を終えて】

通所系事業といえば運動のイメージがあったが、活動参加に繋げていく作業療法の実践が色濃くて驚いた。これも地域に作業療法が根付いてきているということなのだと感じた。と同時に通所系での作業療法の実践が利用者の行動変容に繋がり、健康的な生活の再構築のきっかけを提供できている。「作業療法が個人の健康から地域社会の健康へ波及し始めている」という手応えを感じられた。

対談日：2023年２月２日

広報部＆地域包括ケア対策委員会：池上洋/山崎仁智/小林法一/森本美和/古御門幸奈/金澤均（文責）

事業部活動報告および研修会案内

事業部　**小俣智恵美・大舘　哲詩**

都士会員の皆様、こんにちは。事業部では本年度も養成校のオープンキャンパスで未来の作業療法士を目指す人たちへ作業療法士の魅力などを伝えてまいりました。過日２月11日に東京YMCA医療福祉専門学校の次年度入学予定学生を対象としたオンラインでの学習会にも同席させていただき、様々な現場で働く作業療法士から実際の場面などについて学生からの質問に答える形などでお話をさせていただきました。

質問や感想から作業療法の領域が多岐に渡るからこそ、まだまだ作業療法士を目指す（目指そうか迷っている）学生さんにその幅広さを十分には伝えきれていないのだなと感じる部分もありました。あらためて当部も活動をより頑張っていかなければと気づくきっかけになりました。一方で、そういった部分を説明すると作業療法士としての仕事の魅力を学生が強く感じてくれている様子も分かり、充実した時間となりました。

今後も事業部では作業療法の魅力を都民や学生らに伝えていける場に積極的に関わっていきたいと思います。

別件ですが、事業部では例年都士会員向けの研修を行なっています。今年度は「職員のメンタルヘルスや復職プログラム」をテーマとしました。

３月23日18時半からオンラインでの開催予定です。本ニュースがお手元に届くころには都士会ホームページ上に詳細及び申し込み方法などが掲載されていると思いますので、ぜひご確認ください。

子ども委員会活動報告

子ども委員会　委員長　**山﨑　仁智**

子ども委員会の活動として令和４年度の最後に発達OTの多様な職場・働き方と題して研修会を行うことができました。子どもに関わる作業療法士が、学校や民間など多様な場所で働いています。多様な場所でいろいろな働き方があることを共有できたら幸いです。

2022年度を振り返ると、都学会で教育部とコラボした研修や毎年実施している外部専門家による研修も実施しました。コロナ禍での研修も回数を重ねて慣れてきたことと、対面での研修では参加しにくい都外からの参加者も多く見られたことはオンラインでの研修の強みだと感じています。また学生へも研修を案内することで数名の参加がありました。

研修会以外では、外部からの問い合わせが多くありました。住まいの近くの作業療法を受けられる場所を探すなど問い合わせが多々ありました。この件についても委員会で話し合い周知できる方法を検討できたらと思います。

2023年度の子ども委員会の計画としては、引き続き研修会を開催していきたいと考えています。どのような研修会にしていくかは今後、委員会で検討していく予定です。学びを深めたい内容がありましたら、研修会に参加時のアンケート等にご記入ください。よろしくお願いいたします。 コロナ禍で対面の研修を行っていません。世間では緩和の流れがみられます対面とオンラインのハイブリッドの研修も検討できたらと思います。支援学校への見学研修も日程調整していますが、双方の予定や感染対策などもあり現在実施できていません。コロナ対策も緩和に向かっているため、見学研修も再開できると嬉しいです。

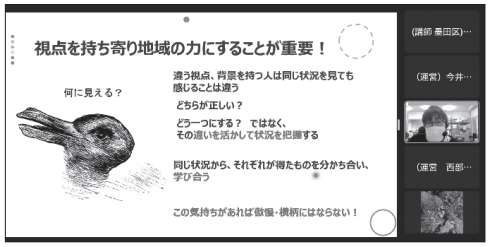
子ども委員会の研修はホームページやFacebook、LINE、Twitterなどでお知らせするのでご確認していただけたら幸いです。

「地域づくり人材育成研修～基礎編～」の開催報告

地域包括ケア対策委員会　委員　**今井　悠人**

地域包括ケア対策委員会では、「東京都内全域で地域における作業療法実践を推進する～作業療法士が自信と誇りをもって地域での作業療法を展開できる～」という目標のもと、地域づくり人材育成事業をスタートしました。２月４日に「地域づくり人材育成研修～基礎編～」を開催し、79名の方々にご参加いただきました。この研修は「地域づくりサポーター」として登録される研修で、今回の基礎編の受講免除者を合わせると127名の「地域づくりサポーター」が誕生しました。

講義内容は、「地域包括ケアシステム・介護保険について」（猪股英輔氏）、「介護予防・日常生活支援総合事業について」（齊藤洸太氏）、「高齢者における地域リハビリテーションについて」（齋藤正洋氏）、「地域をつくる人たち×作業療法～その活動と連携とは？～」（春口麻衣氏）、「地域づくりにおける東京都と作業療法士を取り巻く現状」（中里武史氏）でした。都内でも先駆的な活動に取り組まれているトップランナーの作業療法士の講師の方々に分かりやすく事例も交えてお話し頂きました。今回受講が出来なかった方もまだチャンスはございます。来年度も「基礎編（オンデマンド動画配信）」そして、続編として「実践基礎編」、「実践編」を開催予定です。一人でも多くの方に受講頂き、地域で活躍していただきたいと考えております。どうぞ宜しくお願い致します。



認知症アップデート研修を受けたことがありますか?

認知症の人と家族の生活支援委員会委員　**村島久美子**

当委員会では、認知症に関する様々な情報・知識を振り返り、アップデートすることを目的に、ブロック委員とコラボしながら毎年研修会を開催しています。認知症の医学的な知識やBPSDの理解、認知症の評価だけではなく、国内外の認知症施策の動向なども学ぶことができます。研修の後半は事例検討も行っており、講義で得た知識を活かして復習する良い機会にもなっています。

日本の動向について、先日、ＯＴ協会主催の「士会における認知症への取り組みを推進する担当者同士の情報交換会」で、厚生労働省老健局 認知症施策・地域介護推進課から認知症施策推進大綱の進捗と今後の取り組みについて報告がありました。認知症の普及啓発として開催されている『認知症サポーター養成講座』。ＯＴの中には、キャラバン･メイトとして活躍している方もいるでしょう。この講座の中で使用するテキストは、認知症について正しい知識を得て認知症の人を地域で見守るというコンセプトのもと作成されてきましたが、現在認知症当事者が自身の体験や思いを発信する機会が増え、社会の見方も変わってきました。そのため、大幅な改定に至ったとのことです。

私たちＯＴは、どの疾患・障害に関わらず、本人の声を聞き一緒に生活の再建を目指すことを大切にしています。認知症の人やその家族の声を聞き、日常生活が豊かに支援できるよう、今こそ私たち自身のアップデートが必要なのかもしれません。

認知症にやさしい本の紹介　VOL.37

川崎市立宮前図書館　館長　**舟田　彰**

認知症のわたしから、10代のあなたへ

さとう　みき／著者

今回は八王子市の認知症デイケアで活動し、講演や様々な活動をなさっている、若年性認知症のご自身が書かれた本。「～10代のあなたへ」というタイトル。中高生向きの対象としているところが気になった。テレビドラマで若年性認知症の診断を受ける場面を見て、自分にも気になることが多く、医療機関へ受診。そして、まさか自分がアルツハイマー型認知症の診断を受けるとは・・・。検査前から診断後の心揺れ動く心境が切々と綴られている。また、ご自身のお子様が発達障害であり、子育ても大変な経験をされている中で、「一人で抱え込む」ことなく、助けてくれる人がいるはずだからと説く。そして、自分の経験してきた辛い時のこと踏まえ、今、辛い時を迎えている中高生に向け、どう乗り越えるか、熱いメッセージとして綴られている。この状況の中で、前向きにデイケアやさまざまな場面で活躍しているのは、周囲の支えがあったからこそ今の自分。自分なりに工夫しながら「できることは自分で行う」という環境を自分事として察していくことも改めて再考した。また、人同士、「自分とは違う」と感じられたときは、子どもでも大人でも「もしかしたら、何か困っている」という気持ちで、ちょっと気にかけて欲しいとのこと。最後に「認知症になったいまが、充実し、楽しい」というフレーズがとても印象深く残った。ティーンズ向けだけではもったいない１冊である。

保険部　Letter　福祉用具レンタルによる転倒予防: セーフティブレーキ機構を備えた車いす

保険部　**永吉　隆生**

福祉用具の貸与・販売サービスは、介護保険制度の居宅サービスの一つとして位置付けられている。福祉用具レンタルの種目として車いす（自走用標準型車いす、普通型電動車いす、又は介助用標準型車いすに限る）があり、要介護度２～５の認定を受けている対象者は１～２割負担で利用することができる。今回は、福祉用具のレンタルによる転倒予防として、セーフティブレーキ機構を備えた車いすについて紹介する。

車いす利用者において、ブレーキのかけ忘れを原因とした転倒が多く、その原因は病院や在宅に比べ介護施設の割合が最も高いことや、移乗時に個室で起こることが多い、立位保持が可能で車いすの足こぎができる、認知症や脳血管疾患の患者に多いとされている。

臨床評価のもとで開発、普及されたセーフティブレーキ機構を備えた車いすの主な機能として以下の３点が示されている。

①立ち上がると自動でブレーキがかかる

②座っても自動でブレーキがかかる

③利用者が車いすに乗っていない状態でも車いすを移動できる

車いす利用者の転倒防止と活動拡大、介助者の安心感を提供するために、作業療法士としてこれらのポイントをおさえておき、活用できるようにしたい。

文献

川上千寿子他：車椅子走行時の操作の注意点は，臨床介護，30（5）：654-657，2004.

山内閑子他：認知機能の低下のある方の生活をサポートする車いすの開発，バイオメカニズム学会誌，43（4），2019.

二瓶美里他：手動車いすのブレーキかけ忘れを原因とした転倒に関する実態調査，日本生活支援工学会誌，13（1）：39-45，2013.

就労支援に関する冊子を作成中です！！

就労支援委員会　療法人社団KNI　北原国際病院　**齊藤　陽子**

今年度、就労支援委員会では、就労支援に関する情報を整理した冊子を作成しています。

冊子は、①障害者雇用とは？　②OTとして就労支援に関わる意義とは？　③就労支援の流れとは？　④相談できる就労支援機関はどこ？ など、多くのOTが感じる疑問の解決につながるような内容を予定しています。

現在作成中の為、2023年度中に、会員の皆様のお手元にお届けする予定です。

「就労支援に興味はあるけど、何から始めたらいいかわからない・・」、「初めて就労支援を担当する・・」「他職種にOTの強みをどう説明したらよいか不安・・」という方に読んで頂き、是非、対象者の就労支援に役立てて頂ければ幸いです。

トヨタ社長交代からみる自動車運転と移動支援対策委員会

自動車運転と移動支援対策委員会　担当理事　**楠本　直紀**
委員長　**大場　秀樹**

先日、トヨタ自動車のトップが2023年04月01日付で交代するという報道がありました。名実ともに日本有数の、世界有数の企業の社長が交代するということで、大きく報道されたこともあり、私も興味を持っていくつかの記事を読みました。会見の中で、新体制で目指す進化は『モビリティ・カンパニーへの変革』と掲げており、一方、継承すべきものは、「商品と地域を軸にした経営」と述べています。これを見て、当委員会活動や作業療法士としての移動支援のあり方も変革していく？もしくはしていかなければいけない？と感じ、一方で、作業療法士が培ってきた「地域や生活を軸にした支援」に自信を深めました。皆様はどうお感じでしょうか？

近年、先進的な移動支援の取り組みを行う作業療法士が出てきております。例えば、介護予防普及啓発事業の取り組みで、地域高齢者への運転に関するリテラシーを高め運転寿命を延伸するための予防的支援に関わるOT、住民主体で社会福祉法人の送迎車を活用した新しい地域巡回バスの創設やドライバー養成の支援に関わるOT、新たな移動支援のフェーズに向っている予感がします。自動車運転と移動支援対策委員会が発足し、５年以上の月日が経とうとしています。この５年で、社会の大きな変革や生活様式の変化が起きました。また、コロナ禍で委員会活動の制限だけではなく、そもそも社会全体で移動制限を経験しました。これらの経験を活かし、当委員会でも、東京都の作業療法士ならではの「自動車運転と移動支援」を模索して、次年度も取り組んでいきたいと思います。

「生活行為工夫情報事業を活用した説明会」報告

２月10日に「生活行為工夫情報事業を活用した説明会」をオンラインで開催致しました。

生活行為工夫情報事業は、日本作業療法士協会の事業で「生活行為動作の工夫方法」「用具の調整方法」「住環境の整備方法」などOTが行った工夫事例を集約しています。将来的には当事者のみではなく、地域や医療福祉関連職から「OTは、地域の身近な相談者」としての認識を深めることも目指しています。今回、生活行為工夫情報事業の東部ブロックに参加している士会（７道都県士会）の協力によりモデルケースとなる登録事例を４士会、６事例を作成したOTから、工夫に至る経緯、作成方法、実際の使用方法、注意点などを丁寧に紹介頂きました。参加者は、７道都県士会56名でした。アンケートからは、該当する方がおられるので明日から活用できるなどの意見がありました。東京都作業療法士会では、現在176件の事例が登録されています。登録者は、この事例を見ることができます。是非、皆さんも登録してみませんか。また、説明会に参加したかったが、都合により参加出来なかった方にオンディマンド配信も行っています。

■事例登録方法

東京都作業療法士会ホームページ　→　各部門情報　→　福祉用具部　→
→　2022年１月21日「生活行為工夫情報事業からのお知らせ」（動画説明）
又は、2019年12月17日「生活行為工夫情報モデル事業への協力のお願い」参照
福祉用具支援システム（HPアドレス　https://www.jaot.info/index.php）

■オンディマンド視聴希望の方（OT協会員かつ都士会員に限ります）

下記メールアドレスに件名を「動画視聴希望」とし、①～③を記入して送ってください。事務局にて会員情報を確認した後、視聴するためのURLとパスワードを送ります。返信まで数日かかる場合がありますのでご了承願います。

※視聴は、６月30日まで可能です。

①協会番号
②氏名（協会に登録してある氏名）
③メールアドレス（gmail.comを受信できるようにしてください）

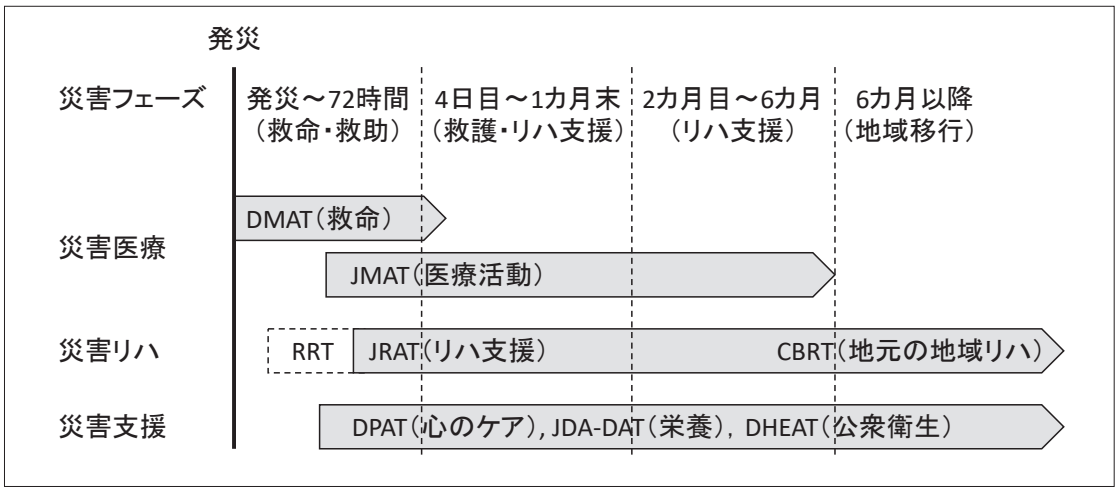
災害フェーズと災害リハ支援に関連する団体

都士会災害対策担当（東京都JRAT理事）　**松岡　耕史**

＜東京都OT士会と東京都JRAT、他団体との連携＞

東京都OT士会は、都内で災害が発生した際にすみやかに災害時の支援が行えるように、東京都JRAT（災害リハビリテーション支援協会）の構成団体として活動し、災害リハ支援に関する団体と連携を図っている。災害支援にはJRATの他、似たような団体名の略語が多く分かりにくいため、今回は災害支援で登場する関連団体について紹介する。

＜災害フェーズと関連団体＞



DMAT：災害派遣医療チーム（Disaster Medical Assistance Team）。被災者の生命を守るため、災害の発生直後の急性期（概ね48時間以内）に被災地に駆けつけて救急治療を行う。

JMAT：日本医師会災害医療チーム（Japan Medical Association Team）。主に急性期以降に、被災地病院や診療所の日常診療の支援（災害発生前からの医療の継続）と避難所、救護所における医療・健康管理を行う。

JRAT：日本災害リハビリテーション支援協会（Japan Disaster Rehabilitation Assistance Team）。生活不活発病の予防への対応や、リハ支援を受けられる制度や体制の確立を促進する。

CBRT：地域リハビリテーションチーム（Community—Based Rehabilitation Team ）。JRAT撤退後のリハ支援を引き継ぐ地元の地域リハ支援チーム。

DPAT：災害派遣精神医療チーム（Disaster Psychiatric Assistance Team）。災害により障害された既存の精神医療システムの支援や、災害のストレスにより生じた精神問題を抱える一般住民・支援者の支援を行う。

JDA-DAT：日本栄養士会災害支援チーム（Japan Dietetic Association—Disaster Assistance Team）。被災施設や避難所において栄養補給の支援や、緊急栄養補助物資の支援を行う。

DHEAT：災害時健康危機管理支援チーム（Disaster Health Emergency Assistance Team）。発災後１週間程度から活動し、救護所・避難所から医療ニーズの情報を集めて健康被害を最小化するために対策を立案する。

※RRT：JRATにおける初動対応チーム（JRAT Rapid Response Team；JRAT-RRT）。災害リハ支援を行うための初動対応として発災直後から情報を収集し、本部を立ち上げて現場活動を開始する。

災害支援にはこの他にも様々な団体が関わっており、各団体と連携していく必要がある。現在は東京都や東京都医師会、東京都JMATなどと定期会議をしており、都内での発災時のリハ支援体制を構築している。今後も災害リハ支援について、都士会としての動き方や具体的な支援内容の他、様々な情報を発信していく。

ブロック活動のお知らせ

西部西南部ブロック

新宿区担当　松下　泰輔

今年度から、西部西南部の一員となりました、松下と申します。今まで勉強会には参加する側でしたが、今回は、「認知症アップデート研修」に運営側として準備に携わることで、受講者の方が、どんな勉強会だと臨床に活かせるだろうか、困っていることに対する解決の手助けになるか、を考える機会になりました。

活動を通して、様々な領域、経験年数の方と交流することで、刺激をもらう日々です。職場では、中堅となり、自分の治療に少しずつ自信がついてきた中で、訓練プログラムや支援方法が凝り固まっていることがありました。その中で、他の病院の先生方と意見交換をすることで、柔軟さを取り戻し、アイデアも膨らみ、臨床への取り組み方に変化がでてきました。

とても話やすい先輩方がそろったブロックだと感じています！コロナ禍のため、オンラインでの業務のやり取りに留まっていますが、いつか交流の場を設けたいと思っていますので、一緒にジョッキ片手に目から鱗の話を共有しませんか？ご興味のある方は、西部西南部ブロックまでご連絡ください！
（seibuseinanbu.ot@gmail.com）

西多摩・南多摩ブロック

西多摩・南多摩ブロックは、今年度はなんといっても都学会に終始した１年でした。来年度は、認知症アップデート研修の企画担当となりましたので、実り多い研修会を開催できるよう頑張っていきたいと思います。コロナ禍が落ち着き、笑顔で賑やかに集まれる世の中がすぐそこまで来ていると信じて、久々の集合研修を想定に入れて企画を進めたいと思います。来年度こそ、当ブロック恒例の「大懇親会」を復活できるかな？！

☆ブロック活動へのご意見・ご要望・ご質問はこちらまで　⇒　swtamaot@gmail.com

区東部・東北部ブロック

社会医療法人社団 医善会 いずみ記念病院　大瀧　直人

2022年11月30日、13歳のハローワークの紹介で、都立足立東高校の３年生に対し「作業療法士について」現地にて授業をしてきました。ほとんどの学生で就職が決まっていましたが、進学する学生もいました。参加職種は、SE、製造業、演劇プロデューサー、縫製加工業、土地家庭調査士、メンタルトレーナー、薬剤師、アロマセラピスト、介護福祉士、保育士、幼稚園教諭、奨学金事業開発ディレクター、中小企業診断士、言語コンサルタントでした。授業形式で、25 分を３回に分け、高校生と交流するという内容でした。職種の説明やOTを選んだ理由、経緯、高校時代の生活などを話しました。また、協会の資料やオーティーくんのポストカードの配布を行い、大変喜んでいただけました。授業終了時に「OTについてわかった」、「介護士を目指しており他職種のことがわかってよかった」など前向きなコメントを頂けました。高校生に向けたOTの説明は、初めての経験で、どのようにしたら聞いてもらえるか？興味を持ってもらえるか？など、プレゼンテーションをする上で大変勉強になりました。ブロック活動に興味のある方は下記までご連絡ください。
ot.naoto@gmail.com

区中央部・南部・島しょブロック

阿部　元彦

今年、区中央部・南部ブロックは東京都作業療法学会の運営委員も兼任しております。ブロック運営のお手伝いをしてくださる方、学会運営のお手伝いをしてくださる方を募集しておりますので、下記の連絡先にご連絡ください。一緒にブロック活動・学会を盛り上げていきましょう！既に広報されておりますが、会場は順天堂大学７号館に正式決定しました。先日、会場の下見を行いました。イメージが具体的になりました。奮ってのご参加お待ちしております。

連絡先：ku.chuou.nanbu.ot@gmail.com

北多摩ブロック

新妻　雅章

北多摩ブロック広報担当の新妻です。今年度は大変お世話になりました。昨今は研修会やブロック会議がオンライン中心となっており、顔を合わせて直接お話しする機会が減ってしまっていることに寂しさを感じております。 そんな中でしたが、今年度はツドイノバ（OT座談会）、勉強会の開催（精神科領域での身体リハビリテーション、MTDLP基礎研修）、ツナガルバ（交流掲示板・SLACKアプリ）を企画・開催させていただきました。たくさんの皆様にご参加いただき、感謝しております。これからも、どんどん新しいことにチャレンジしていきたいと思います。まだまだ気を抜けないご時世ですが、オンラインでも対面でも皆様に会えることを楽しみにしております。来年度もどうぞよろしくお願いいたします！引き続き、北多摩ブロックでは一緒に活動してくださる方を募集しています。領域や経験年数も様々でフレンドリーなOTばかりなので、少しでも興味のある方は連絡ください！　→　ot.kitatama@gmail.com

区西北部ブロック

竹山　眞美

このたびは、区西北部ブロック委員になりました竹山と申します。私は東京北医療センターという急性期病院に勤めています。当院は東京都の中でも特に高齢化が進んでいる北区という地域の一つです。急性期の発症直後の患者様だけでなく在宅まで支援を行えるように訪問リハビリを行っております。また、発達小児リハビリ外来も事業の一つとして行い、幅広い疾患と患者様に対してリハビリを提供しております。そして、当院は地域医療振興協会の基幹病院として日本各地（主にへき地）への医療支援を行っており、一昨年度は神奈川県の支援を行ってきました。こうした業務の中で病院だけ、施設だけで対象者並びその家族の方の生活を支えられることは不十分であることを認識し、各機関や地域との連携の大切さを知り委員となりました。院外へと視野を広げて、作業や様々な手段を通して対象者並びその家族がより良い生活ができるように委員として活動をしていきたいと思います。

各市区町村の所属ブロックに関しては都士会ホームページでご確認ください。

第19回東京都作業療法学会開催日の変更と学会場の決定等決定事項についてのお知らせ

第19回東京都作業療法学会実行員会　広報担当

- ◆ 第19回東京都作業療法学会の開催日が７月23日から７月２日へと変更となりました。
- ◆ 学会場が順天堂大学７号館に決定いたしました。
- ◆ 第19回東京都作業療法学会ホームページが立ち上がりました。
- ◆ 都士会HPと都学会HP上にて演題登録を受付中です。奮ってご応募ください。
- ◆ 筆頭演者が５年目以下の方に限り「若手セッション」への参加と「若手奨励賞」にチャレンジしていただくことが可能です。
- ◆ 企画公募も行いますのでいろいろな企画をご提案ください。

詳細に関しましては都士会HPのお知らせ、都学会HPをご参照ください。
ご迷惑をおかけいたしますが、今後ともご協力よろしくお願いいたします。

編集後記

巻頭言では田中会長が周年期の最後を飾ってくださいました。今回、一年ほど前からお願いしていた通所系施設で活躍されているプロフェッショナルの方の対談が実現しました。生活の場に密着した作業療法ならではの難しさやOTらしい面白さがあるのだろうと感じました。自動車運転と移動支援対策委員会の記事ではトヨタの社長が交代したことを受けて、作業療法士としての移動支援のあり方も変化するのではないか、と述べられておられました。作業療法士もそういった世の中の動きに敏感でなければならないと改めて気付かされました。

広報部部長　水口寛子

※ニュースに掲載されている写真は、ご本人の同意を得たうえで掲載しています。

◈東京都作業療法士会　事務局
〒160-0022　東京都新宿区新宿５－４－１　新宿Qフラットビル501号室
TEL：03-6380-4681　FAX：03-6380-4684
◆東京都作業療法士会ホームページ　http://tokyo-ot.com/
◆東京都作業療法士会ホームページ窓口　postmaster@tokyo-ot.com
※お詫びとお願い：現在事務局での電話対応が困難な状況にあります。
ご質問・ご連絡は、FAX・メールにてお願いいたします。